

明治大学図書館・アフリカ文庫講演会

Africa Today
－ ガーナの女性医師が語る AIDS, ODA, etc.－

Dr. Irene Ayi*

2003 年 11 月 25 日 (火)

午後 1 時 30 分開場 午後 2 時 00 分開演

明治大学中央図書館 B1 多目的ホール



*アイリーン・アイ／ガーナ共和国野口英世記念研究所研究員・医師

司会 大変長らくお待たせいたしました。ただいまより「明治大学図書館
アフリカ文庫講演会」を開催いたします。

講演に先立ちまして、アフリカ文庫選定委員会委員長の福田邦夫商学部
教授よりご挨拶、並びに本日の講師アイリーン・アイ先生のご紹介をいた
します。福田先生、よろしくお願いいたします。

挨拶：福田邦夫(アフリカ文庫選定委員会委員長・商学部教授) こんにちは。
は。アフリカ文庫の福田でございます。本日は、雨の中、多くの方におい
ていただきまして、ありがとうございます。お礼申し上げます。

今日は、ガーナから来日されていますアイリーンさんに、お手元に略歴
があると思いますが、非常にお忙しいなか時間を割いていただきまして、
「今、アフリカは」というテーマでお話をさせていただくことになりました。
お礼を申し上げたいと思います。

「アフリカ文庫」というのは、1979年にセネガル初代大統領サンゴール
氏が来日されたおり、明治大学からサンゴール大統領に博士号を授与し、
それを記念して明治大学にできた文庫でございます。膨大な量のアフリカ
に関する文献を揃えておりまして、日本の教育機関の中では有数のコレク
ションとして非常に高い評価を得ております。

今、世界はどこも、イラクだとか、テロだとか、ブッシュだとか、そう
いう話ばかりですが、8億人以上の人たちが暮らしているアフリカ、日本
の国土面積の81倍以上あるアフリカ、そこで今どのようなことが繰り広
げられているのかということを、アイリーンさんにお話していただきたい
と思います。

野口英世博士が骨を埋めたガーナから来られたアイリーンさんに話を
していただくというのは、非常に意義のあることだと思います。アイリー
ンさんのご主人は、野口英世記念研究所のお医者さんでいらっしゃいます
し、アイリーンさんご自身、ここに書きましたように、東京医科歯科大学
の大学院で勉強中でございます。

なお、アイリーンさんの講演に至るまでをアレンジしていただきました
ドクター・ミランガにお礼を申し上げたいと思います。(拍手)

それから今日は、エリトリアのアフォワキ大使も、わざわざお忙しい中、

時間をさいて来て下さいました。お礼を申し上げたいと思います。(拍手)

あとまだ、アフリカ諸国の外交官の方が多々ご参集いただく予定でございますけれども、以上をもちましてご紹介とさせていただきますと思います。では、アイリーンさんよろしくお願いします。

なお、今日の通訳、翻訳は、国際交流センターの篠田さんをお願いします。篠田さん、よろしくお願いします。

アイ よろしくをお願いします。

皆さんこんにちは。3年間日本にいますけど、日本語はまだまだ不自由なので、今日の講演は英語でやらせていただき、篠田さんに通訳をお願いしたいと思います。

(これより通訳による)

私の名前はアイリーンと申しまして、現在、東京医科歯科大学で勉強に励んでおります。

アフリカに関しては、お話したいことがたくさんありますし、また、アフリカのさまざまな面について知っている人たちが数多くいらっしゃいます。本日は、私のアフリカに関する思いとか、またはアフリカ全体のこと、それからアフリカが今直面している現実的な問題などについてお話をしていきたいと思います。そこからまた具体的なものに移っていきたいと考えております。

では、これから始めさせていただきます。

アフリカ大陸はとても特徴的な大陸でありまして、世界でも第2位の大きさを誇っておりますし、また55カ国という数多くの国を擁しております。現在、人口はだいたい7億7,800万人です。アフリカ大陸は、さまざまなものを擁しております。例えばいま示しましたとおり、ナイル川はアフリカで最大の川で、ここに世界で最も大きな規模の砂漠地帯があります。ですから、サブ・サハラというような言い方をしますときには、サハラ砂漠の南に位置する国々を全てサブ・サハラ・カントリーズという形で呼びます。

あとでボルタ湖についてお話したいと思いますが、これも大変規模の大きい湖であります。

さまざまな民族がおりますので、いろいろな言葉が話されております。例えば、ハウザ語はブルキナファソで使われていたり、スワヒリ語は南部の方で使われていたりします。また、英語とフランス語は植民地時代からの名残りでありますけれども、さまざまな民族で話されている言語であります。

このアフリカは、多くの天然資源を持っております。例えば金はガーナとか南アフリカ、ダイヤモンドはリベリアとか、その他にマンガンとか、鉱石とか、そういうさまざまな天然資源を有しております。

また、アフリカ大陸というのは、さまざまな人材を有しております。例えば、ドクター・エンクルマ、この方はガーナの初代大統領でありまして、まさにガーナの独立を勝ち取った政治家であります。ガーナは元はイギリスの植民地でありました。エンクルマ大統領がよく言っていたことは、ただガーナだけの独立だけではなくて、アフリカ諸国全ての独立で、はじめて意味のある独立になるのだということでした。

もう1人の重要な人物でありますネルソン・マンデラ氏。皆さんご存じのとおり、南アフリカの初代大統領でありまして、アパルトヘイトの廃止に向けて大きな役割を果たした人物であります。1993年には、南アフリカのデクラーク大統領とともにノーベル平和賞を受賞しております。

3人目。皆さんにとっては大変馴染みのある方だと思いますけれども、ガーナ出身のコフィー・アナン国連事務総長であります。彼も2001年に、国連と同時に国連事務総長としてノーベル平和賞を受賞しております。事務総長は1996年から務めておられます。

このように人材や資源に恵まれているにもかかわらず、なぜアフリカ大陸は貧しいと言われているのでしょうか。ひとつの大きな要因としましては、戦争及び紛争があげられます。それは外的な要因、内的な要因、両方による紛争が大きな原因だと考えられます。ニュースなどでお聞きかと思いますが、アンゴラ、ナミビア、エチオピア、リベリア、コンゴ、ルワンダ、コートジボアールなどでは内戦が行われております。

これからガーナについて皆さんにご紹介をしていこうと思います。ガー

ナモサハラ砂漠以南にありまして、アフリカの諸国が抱えている諸問題とともに共有している国であります。1957年にイギリスから独立して以来、さまざまな政治的な混乱に直面し、今までに11人の大統領が選出されております。

現在、政府の姿勢は、憲法に基づく民主主義であります。これは、現在のガーナの大統領の写真であります。その右にあるのがアフリカ大陸の地図で、その小さなところがガーナであります。

ここがボルタ湖にあたります。アクラが首都であります。

右側には、コートジボアールなどのフランス語圏が多くあるわけですが、ガーナは唯一の英語圏であります。

ガーナは、10の地域に分割されておりまして、人口は約2,000万人であります。15歳から64歳の人口が約55%を占めます。他のアフリカの国と同じで、さまざまな民族グループがおります。だいたい98.5%がガーニャン、または黒人と言われている人々でして、4つの民族に分かれています。それ以外に、ヨーロッパ系の人々もおりまして、英語が一応公用語ではありますけれども、民族ごとの言語、それからさまざまな方言が使われております。15歳以上の人々では、識字率はだいたい74.8%です。

56.5歳が平均寿命でありますので、ものごとが何もななくうまくいけば、私もだいたいこの年に亡くならなければいけないということになります。なぜこんなに寿命が短いのか、この講演の中でさまざまな要因を考えていきたいと思います。アフリカの他の国々、例えばナイジェリアとかガボンでは40歳ぐらいが平均寿命ということも言われております。

ガーナにはさまざまな宗教があり、63%がキリスト教、16%がイスラム教、2.1%が伝統的なアフリカの宗教、または仏教であります。

もうひとつ付け加えますと、ガーナ人の女性が産む子供の人数ですが、だいたい3.3人になります。

ガーナは熱帯の気温の国でありまして、雨季と乾季があります。4月から9月までが夏ということで、12月から3月までが冬というような形ですが、だいたい23度から24度という平均気温ですので、大変暖かい国であります。

地図¹で示しております青い部分が比較的都会でして、他はだいたいが郊外といたしますが、あまり開発されてない地域であります。ガーナは、ご存じかもしれませんが、第三世界、または開発途上国と言われている国であります。ここにいま指し示しました赤い線が、ガーナ国内を走っている道路、重要幹線道路であります。地図の下の方に黒い点線が見られると思いますけれども、これが鉄道網であります、953km ぐらいしかできておりませんので、それより北のほうは鉄道は走っておりません。12 の空港がありますけれども、そのうち 4 つの空港のみが完全に舗装をされております。

ガーナの教育についてですが、これは日本の教育とだいたい同じであり、小学校が 6 年、中学校が 3 年、高校が 3 年というような形になります。そのあとに高等教育に入りますと、専門学校、大学、それからポリテクニクなどの大学に入っていくような形になります。ガーナには 13 の大学があります。そのうち 5 校が国立大学であります。他の大学は全て私立大学となっております。野口英世記念研究所もガーナ国立大学の中に組織されております。

ここで皆さんに、小学校がどういうものかお見せしたいと思います。しっかりとした建物がありまして、まさに村にある小学校の風景がこれです。サッカーで遊んでいる子供たちを見ることができると思います。

こちらは中学校です。ここは左のほうに寮などがありまして、右側は私立の高校に当たります。

ガーナは 1967 年 3 月 1 日に独立したのですが、この日はいつも独立記念日としてさまざまなパレードが行われておりまして、小学生、中学生などの学生、それに続いて軍、警察などが一緒に行進をします。他にもさまざまな層からさまざまな参加者が加わって、このパレードをやっております。右側の写真は独立記念塔にあたるところです。

ガーナとアフリカの深刻な問題をお話する前に、もう少し写真をお見せしたいと思います²。

ガーナではだいたい 19 のお祭り、フェスティバルが行われておりまし

¹講演中、スライドにて掲示された。本紀要では省略。

²講演ではガーナの様子を写した写真が多数スライドにて掲示された

て、これが年間を通じて、いつも行われているというような形になります。その地域の首長にあたる人が衣装を着て、そのまちを練り歩くというフェスティバルが行われています。だいたいフェスティバルの間というのは、太鼓を叩いたり、または踊ったりするというのが普通です。これも祭りを祝している一光景でありますけれども、ここでたいへん特徴のある髪型を見ることができると思います。

この写真は、ケンテクロスというガーナの国でつくられている服です。ちょうど着物と構造が似ているのかもしれませんが。ここに写っているのは女王陛下、それから国王陛下で、金を身につけておりまして、これで一つの衣装ということになっております。北部の方では、このケンテというのは、もう少し地味な形で、白い、こういうケンテになっております。北部にいる人々は、イスラム教徒であります。

ボルタ湖では、観光客は遊覧を楽しんだりします。また右の写真は小さな漁村を写したものであります。その他にガーナはさまざまな、例えば遊歩道とか、多くの観光地を持っております。

これから少し深刻な話に移っていきたいと思っております。

まず初めに保健の体制についてお話をしたいと思います。

ガーナの厚生大臣によると、アフリカ全土の保健水準にも達していないというのがガーナの現状であります。多くの患者が医者に見てもらおうのを待っているという状況があります。医者1人に対して何人の患者を診なければいけないかという統計については、あとでお話したいと思います。

いろいろな問題の根源となるものは、まさに貧困であります。自分の保健医療のためにお金が払えないという現状があるわけです。

ここはガーナのティーチング・ホスピタルと言われている病院でありまして、これはイギリスの植民地時代にできたものであります。右側に出ている写真には手術棟がうつっておりますが、この写真からもご覧になれますとおり、建物は修繕が必要な状態にあります。この病院はアクラにあるわけですが、もうひとつ、ガーナの国の中央部にあって、今現在、ティーチング・ホスピタルという形で格上げされる準備が進められている病院があります。

1人の医者が診なければいけない患者数を、1965年と1989年に調査し

たことがあります、状況は悪化しつつあるという数字が出されています。私の推測ではありますが、現在の詳細な統計があれば、もしかしたらもっと悪い状況になっているかもしれません。看護婦についても同じ 1965 年と 1989 年に、1 人が担当する患者数について調査がされましたが、やはり状況は厳しいものがあります。

多くの看護師、医者は、ガーナ国内よりむしろ、イギリスなど、他の国々で、きちんと給与が払われるところに行くという傾向があります。そのため、ガーナ国内では医者や看護婦が大変に不足しているのです。

ひとつコメントさせていただければと思うのですが、ガーナは、国内紛争や内戦は起きたことがありません。ただ、1994 年にガーナの北部において、民族間同士の紛争が起きましたが、これは早急に解決されました。ですから、この医療状況が紛争によるものではないということがわかると思います。

この写真は典型的な診療室です。ごく少数ですが、もう少ししっかりした診療室を持っている病院はありますけれども、だいたい公立の病院の診療室というのは、このような形の診療室です。ガーナの看護師は、緑色の服に白いエプロンをつけるという形になっております。

アフリカの伝染病ですが、種類はたくさんあります。多く言われておりますのは、例えばマラリアとかギニア熱、HIV/AIDS などです。

ガーナの HIV が最初に発見されたのは 1986 年で、それから 1987 年 107 人、1989 年 183 人というように増えており、そのあとには 2,744 人と大変多くなってきております。1994 年に 12,000 の症例がありまして、そのうち 8,000 が 15 歳以上の感染者です。5 歳から 10 歳でも感染している人たちがいます。成人の人口のうち 3% が HIV に感染しております。例えば、ガボンですと 9%、もう少し高いパーセンテージを示している国もあります。

親を HIV で亡くした孤児、遺児は 17 万人にも上ります。

調査によりますと、例えば炭鉱とか、国境沿いに多くの HIV の感染者がいるといわれております。調査結果から推測しますと、売春などの行為が伝染につながっていると考えられます。ほかのアフリカの諸国と同じく、ガーナも HIV と闘っております。

今から、日本の政府それから日本の人々がどのような役割を果たしてき

たかについてお話したいと思います。ガーナと日本との関係は 1927 年に始まります。1927 年とは野口英世博士が黄熱病についての研究調査のためにガーナを訪れた年です。大変残念ながら 1929 年に、研究をしていた野口英世博士は亡くなってしまいます。1979 年に、日本政府が援助をいたしまして、野口英世記念研究所を設立いたしました。国際協力事業団を通して、日本の政府それから日本の人々は、さまざまな支援をしております。技術的な支援、資金的な支援、HIV やさまざまな感染症、伝染病などの対応に寄与しております。同じようなことがケニアの医療研究所でも行われております。野口英世記念研究所を通して、日本政府は HIV/AIDS、それから寄生虫、住血吸虫の対策をとっております。

(講師が日本語で) 住血吸虫は日本にはもういませんけど、ガーナではまだまだ問題です。

(再び通訳による) 日本は、ガーナの人々に、さまざまな感染症予防に関するトレーニングを実施しております。国際協力事業団を通して、新しい技術の導入についての指導をしています。私もその恩恵を受けまして、1993 年に東京大学でさまざまな研究活動をすることができました。東京大学での研修のあとに、他の研究者とともに、新しい予防策などについてのプロセスをガーナに持ち帰ることができました。

その他に青年海外協力隊によるガーナの支援も行われておりまして、普通のガーナ人だったら行かないようなところでも、基礎教育にさまざまな貢献をしております。例えば、農業や数学などの基礎教育について、多くの海外協力隊員の協力が得られております。

また、政府開発援助によって、日本はきれいな飲み水の提供に寄与しております。特に東部における飲み水の提供、機械などの提供を行っております。

これが野口英世記念研究所の正面からの写真であります。

これも野口英世記念研究所を拡大したときにできた建物で、日本政府の援助によってできたものです。これは特にさまざまな実験や研究を行っております。これが研究室のひとつでして、いま左に写っている方は、伝染病に関係する研究者のトップでいらっしゃいます。ここにいますさまざまな技術は、日本からガーナに技術協力という形で提供されたものであり

ます。

なぜこんなに多くの病気があるのかということになりますけれども、ひとつには川に原因の一つがあると思います。川では、服を洗ったり、皿を洗ったり、またはそこで泳いだりする。その中で病気にかかってしまうこともあるのです。小さな池の水を飲み、水を浴び、お風呂にも入ります。ほかに方法はありません。ここしか水源がないからです。現在のプロジェクトの中で進められてきたことは、井戸からの水を提供するということです。

このスライドは中学や高校に通っている生徒たちが、自分の自宅からさまざまな洗い物を持ってきて、洗っていくことです。なぜこういった形で洗い物をするかといえば、水を長距離運んで家で洗うよりは、ここに持ってきたほうが早く洗えるからです。しかしながら、こういう過程の中で、バクテリアを持ち帰ってしまうということも起こっております。

このスライドは、日本の研究者が、畑に水をどうやって引いてくるかということ等について、色々とアドバイスをしている現場であります。これがまさに、日本政府や日本の人々が、ガーナの伝染病予防のために寄与している光景の例であります。

日本政府の政府開発援助及び国際協力事業団を通して、道路の舗装などにも基金が設立されています。この写真は最近つくられた舗装道路です。

ここまで見てきたことというのは、まさに貧困、貧困、貧困であります。なぜこういうことになってしまっているのかということを話します。

これがガーナで使っている紙幣です。2002 年は、7,000 セディがちょうど 1 ドルに当たりました。

統計によりますと、人口の 30.1%が貧困に直面し、生活保護を必要としています。その 30.1%の人々はどのようにして生きているのか。このことについて、これからお話していきたいと思います。ナイジェリアの場合は、人口の 60%が貧困にあえいでいます。

ちょっと鮮明な写真ではありませんけれども、これは焼き魚ですが、こういうものを、この女性は箱に入れて頭にのせて運んでいかなければいけない。

このスライドはまさに児童労働の現場ですが、この子たちもほかに選択

肢は全くないのです。左の子どもはバナナを売ってますし、右の写真の子どもはパンを売っているわけですが、ここで売っているということは、学校には行っていないと言えると思います。

これがアクラの概観図です。あまり高層な建物はありません。これはアクラの中でもとても活気づいた場所として、バス停と、その近くに市場があります。

ガーナにはさまざまな伝統的な料理があります。これがまさに伝統的なキッチンですが、「カサバ」という…、

(通訳と講師でやりとりあり)

(会場より「タロイモ」という発言あり)

タロイモで、これで一日の労働を癒すということです。ちょうど「フフ」になっていて、これは日本のお餅みたいなものです。こうやってご覧になってわかりますように、スープとか、お肉とか、お魚とかに、フフをつけて食べながら、例えば HIV とか寄生虫のこと等を忘れて、食べることを楽しむのです。

ありがとうございました。(拍手)

質疑応答

司会 アイ先生、どうもありがとうございました。

ご質問、ご意見等ございましたら、挙手をお願いいたします。

質問 (通訳) ガーナのことですが、1960 年まで植民地であった訳ですが、独立を勝ち取ったあとに、どのような問題がおこったかについてご質問します。

アイ ガーナは 1957 年に独立しました。アフリカでの最初の独立国がガーナであったわけですから、その機運に乗って、急速に発展をしていったわけです。特に、エンクルマ大統領によるところが大でした。ただし、さまざまな内政の問題が起きました。例えば、1966 年にはクーデターが起きました。1969 年と 1972 年に政権が変わり、またそれに続き 79 年、81 年、

83 年と政権が変わりましたので、そういう意味では、政治的なさまざまな変化というものが起きております。最初にも申し上げましたとおり、内戦という程の大きなものは起きていませんけれども、1994 年に民族間の紛争がありまして、15 万人近くの人々が難民にならなければいけなかったのです。現在のところは落ち着いていると言えますと思います。今はほかの地域からの難民を受け入れている現状です。

司会 ほかにご質問、ご意見等ございますでしょうか。

質問 本日は、大変貴重なお話を伺いまして、どうもありがとうございます。先生のお話を伺いますと、ガーナにおける深刻な諸問題の原因は貧困にあるかと思いました。ただ、その貧困を解決する方策ですが、例えば農業の充実ですね。これが考えられるかと思えますけども、それには何か障害はあるのでしょうか。また、諸外国、特に旧宗主国であるイギリスからのイギリス企業のガーナ進出、こういったことは考えられないのでしょうか。法律制度も含めまして、いろんな制度上の問題がガーナにあるのでしょうか。おわかりになる範囲で結構でございますので、お教えいただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

アイ ご質問ありがとうございました。ガーナにとっては、農業というのは大変重要な産業であります。ただ、農業というのは、雨に頼らざるを得ません。ですから、さまざまな水道の普及などに日本政府が寄与しているわけです。企業がガーナに進出するということはそれほど聞いたことがありません。

そのひとつの理由としては、もしかしたら政治腐敗、または紛争であるかもしれません。ガーナの国内では紛争が起きているわけではありませんが、まわりのトーゴとか、コートジボアール等では紛争が起きておりまして、そういうことを考えますと、いつ投資していいのか、そしてどうやって投資していいのかを心配してしまうというのが現状でしょう。ガーナは、そのような紛争地域に囲まれていることで、企業が投資をするのをちょっと控えていると言えるのかもしれません。ガーナ政府がどのような

形でイギリス政府と協議をしているかはちょっとわかりませんが、イギリスの企業がガーナに入ってくることはあまり聞いたことはありません。それより日本の政府とか、日本の人々が、さまざまな、こういう水道等の普及に努めているということは聞いておりますし、また写真にもありましたように、ダム等をつくり、そこで農作物を通年採れるように、水道なども整備をしていると言われています。

質問 独立前と独立後の、ガーナにおける女性の変化について伺いたいと思います。

アイ 私は、独立後ずいぶんたってから生まれましたので、自分の母親、それから祖母が言っていたことを思い出すしかないわけです。やはり古き良き時代ということをよく言っております。独立後、植民地時代にできてきたインフラの整備等が継続されなかったということが1つの大きな問題ではないかと思います。前にもお話ししましたように、政権がどんどん変る中で、前の政府がとってきたプロジェクトを、当然次の政府は継承しないわけです。その過程で継続性がなくなっていった、インフラの整備が進まなくなっていった。そういうことがひとつの原因ではないかと思っております。ただし、教育については若干違うのではないかと思います。昔は、女性というのは、家で家事等を司り、男性は外に行って仕事をしてお金を持って帰ってくる形になっていましたけれども、最近では、女性が教育を受けるようになってきておりますので、その点は変わってきておりますけれども、相対的に言えるのは、独立前のほうが、生活は良かったのではないかと思います。

質問 私は、タンザニアで教員をしておりまして、現在、明治大学で勉強をしているのですが、医療の医学研究者としましてちょっとお伺いしたいのは、アフリカの HIV/AIDS が大変問題になっておりますが、今後、アフリカ大陸においてどういう状況になっていくのか。それから、どのような対策がとられるべきなのか。それについて質問したいと思います。

アイ 私は、アフリカの将来については希望があると思っております。今までの問題としては、西洋的な薬は高く買えないということがありましたけれども、最近ガーナでは、伝統的な、漢方と訳していいのでしょうか、そういう薬を使って、どのようにしてこの HIV に打ち勝つことが出来るのかということをずっと 1 年間通して実験をしてきました。現実的には、確かに HIV、ポジティブであることには変わりはありませんが、その症状をやわらげる、またおさめるということができるようになったという研究成果が最近出てきております。ですから、これを普及させることによって、もう少し HIV に対応できればということを考えています。

これについては日本政府も協力しておりまして、野口英世記念研究所を通して、日本政府とガーナ政府が現在協力をしています。ケニアやタンザニアについても、橋本元総理のイニシアティブのプログラムのもとに、こういう対策がとられていると思います。ただし、言えることは、やはり貧困がこの病気の原因であり、どうしてもお金を稼ぐための売春等の行為がこの伝染を広げているのではないのでしょうか。ただし、さまざまな機関が、キャンペーンをしていますので、例えば、安全な方法で性感染症を防ぐ方法とか、伝統的な宗教的な儀式を控えるとか、そういう形でさまざまな予防策がとられております。各国がしっかりとその努力を推進し、なおかつこの研究に秀でた国々と協力をしていくことによって、アフリカの希望は見えてくると思っております。

福田 ありがとうございます。まだたくさん質問があると思いますが、本日はエリトリアの駐日大使閣下がご出席くださっていますので、いまのお話について、簡単なコメントをいただきたいと思います。よろしくお願いします。

エリトリア駐日大使 まずは、このような機会を与えていただきましてまことにありがとうございます。私は、駐日エリトリア大使であります。

アフリカの中では大変新しい国でありまして、1957 年に独立し、エリトリアは 1993 年に独立しました。独立してまだ 10 年でありますけれども、ガーナと同じような問題を、エリトリアもまた抱えております。この

根本には、色々な問題があると思いますけれど、アフリカ諸国で問題となっているのは、やはり政情不安というものが大きいのではないかと思います。これは政権の交替等で、例えばガーナでも最初の政権から何回も政権が変わっていると言われており、やはりアフリカの基本的な問題の解決をするには、平和、そして政情の安定化がどうしても必要になってくると思います。

アフリカは54カ国で構成されておりまして、その中でもさまざまな言語、それから宗教、色々な国籍の民族的な背景を持つ人々がおります。こういう背景があるアフリカ大陸ですが、一番重要なのは、平和な環境を築いていく。そして、その平和な環境を基盤にして開発を進めていくということが一番重要になってくると思います。

アフリカは、いろいろな問題を抱えておりますけれども、大きかったのは、やはり冷戦構造の影響を受けているということでありまして。例えば、我々の国につきましても、独立に関しましては、基本的にはソ連とアメリカによる超大国の考え方によって、我々の独立が遅れて、1993年になったという経緯があります。そうしますと、その1993年の間までに失われた年数というのは計り知れなくて、その間にさまざまな工事とか基盤整備ができたのではないかと思います。このようなさまざまな要因をはらんでいるアフリカ大陸でありますけれども、アフリカ大陸に対しては特別に、しっかりと意識を向けていき、アフリカのリハビリ、それから再建に向けて意識を高めていかなければならないと思いますし、また、アフリカが自分たちの課題を、自分たちで開発を進めていくための世界的な支援というものが必要であると思います。ありがとうございました。

福田 どうもありがとうございました。

それでは、そろそろ時間がまいりましたので、本日の会はこれで閉めさせていただきますと思います。皆さん、お忙しい中をおいでいただきまして本当にありがとうございました。また、お忙しい中時間を割いていただきましたアイリーン・アイさん、それから国際交流センターの篠田さん、お2人に拍手を送っていただきたいと思います。(拍手) どうもありがとうございました。

司会 これをもちまして「明治大学図書館 アフリカ文庫講演会」を終了いたします。本日は、お忙しいなかおいでいただきまして、誠にありがとうございました。

——了——